

カラマツの天然更新地はどうなった？

戦後に植栽されたカラマツ林が収穫適期を迎え、皆伐されるところでございましたが、皆伐後に植林されない再造林未済地の発生が問題となっています。そこで、造林経費を大幅に削減できるカラマツの天然更新に期待が寄せられています。カラマツの天然更新は、周囲にカラマツの種子供給源があることを前提として、表土を20～30cmの厚さで除去することで可能になります。

ところで、このようにしてカラマツが天然更新した箇所は本当に成林するのでしょうか。林業試験場では、過去に道内でカラマツが天然更新したとして報告された箇所のうち、現地が特定できる箇所について、道南を除く全道で現況の調査を行いました。その結果、2013年春までに調査した15箇所のうち、カラマツ林成林が6箇所（写真-1）、カラマツと広葉樹の混交林化が5箇所（写真-2）、広葉樹林化が3箇所（写真-3）、無立木地化が1箇所（写真-4）となっており、成林していた箇所は全体の40%でした。今後は、カラマツの天然更新地において、カラマツと広葉樹の初期成長の差や、樹種によるエゾヤチネズミの被害率の差を調査して、カラマツの天然更新地が広葉樹との混交林化、あるいは広葉樹林化する原因を明らかにし、カラマツの天然更新地をカラマツ林として成林させるためにはどのような施業が必要かを示していきたいと考えています。

（道東支場）



写真-1 カラマツ林が成林した例

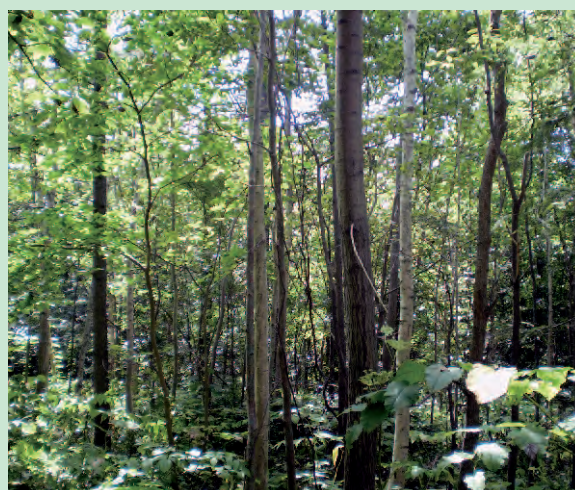


写真-2 広葉樹と混交林化した例

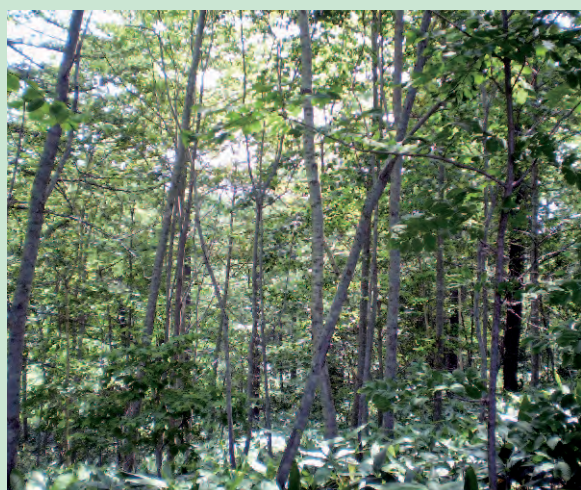


写真-3 広葉樹林化した例



写真-4 無立木地化した例